

麻酔科後期研修プログラム

I プログラムの目的

麻酔科医の仕事は、周術期の患者の意識、疼痛、呼吸、循環、代謝等の全身管理から出発し、救急医療や集中治療における患者管理、疼痛管理を応用したペインクリニックや緩和医療への関与へと発展している。麻酔科での研修は、患者の生命を守る医師として必要不可欠な内容に富んでいる。尾道市立市民病院麻酔科では、豊富な症例と、熱意にあふれる指導スタッフが臨床研修医や救急救命士の指導に取り組んでいる。

II プログラムのコース

尾道市立市民病院麻酔科後期研修プログラムには、次の3種類のコースがある。

1. 短期麻酔科研修コース

短期麻酔科研修コースは、各種手術の術前、術中、術後管理および救急部・集中治療部における気道確保、人工呼吸等の呼吸管理および輸液管理、循環作動薬等の使用による循環管理を通し、全身管理の知識と技術を習得することを目的とする。

2. 麻酔科標榜医養成コース

麻酔科標榜医養成コースは、各種手術の術前、術中、術後管理、および救急部・集中治療部における全身管理を通し、麻酔科領域の専門知識と技術を習得することにより、厚生労働省の認定する麻酔科標榜医の資格取得を目標とする。

3. 麻酔科専門医養成コース

麻酔科専門医養成コースは、各種手術の術前、術中、術後管理、および救急部・集中治療部における全身管理を通し、麻酔科領域の専門知識と技術を習得することにより、厚生労働省の認定する麻酔科標榜医および公益社団法人日本麻酔学会の認定する麻酔科認定医および麻酔科専門医の資格取得を目標とする。

III プログラム指導者

指導責任者	院長 突沖満則	岡山大学 1980年卒業 医学博士、麻酔科標榜医 日本麻酔科学会認定指導医
-------	---------	---

IV 研修プログラム

本プログラムは公益社団法人日本麻酔科学会「麻酔科医のための教育ガイドライン」に準拠して行う。研修期間中は、それぞれの麻酔法について偏りのないように研修し、研修目標が完了するように配慮する。

<1年目>

原則として1年目はASA PS 1～2の患者で研修を行う。

1～3か月：術前管理、全身麻酔の導入・維持・覚醒、術後管理

4～6か月：脊髄くも膜下麻酔、腰部硬膜外麻酔併用全身麻酔

6～12か月：胸部硬膜外麻酔併用全身麻酔、脳外科麻酔、産科麻酔

<2年目>

2年目以降はASA PS 3以上の患者も対象とし、小児麻酔、胸部外科麻酔等を含むすべての麻酔を行う。また、ICUでの重症患者管理を研修する。

2年目が終了した時点で、厚生労働省の認定する麻酔科標榜医および公益社団法人日本麻酔学会の認定する麻酔科認定医の資格を取得する。

<3年目>

すべての症例を単独で麻酔管理し、ICUでの重症患者管理を行う。緩和ケアを行い、指導する。3年間の研修中にICLS尾三のICLSコースを受講し、インストラクターを1回以上経験する。また、学会発表、論文作成も1回以上経験する。

さらに、学位取得、公益社団法人日本麻酔学会の認定する麻酔科専門医および指導医の資格取得を希望する場合にも対応可能である。

V 研修内容

公益社団法人日本麻酔科学会「麻酔科医のための教育ガイドライン」に準拠する研修内容である。

<学習項目>

麻酔科関連領域と麻酔科医の役割

1. 麻酔の歴史
2. 麻酔科関連の薬理学
3. 麻酔科関連の生理学
4. 輸液・輸血療法
5. リスクマネジメント
6. 術前評価
7. 術前合併症と対策
8. 悪性高熱
9. 麻酔器
10. モニタリング
11. 気道管理
12. 鎮静
13. 各種麻酔法の理解と実践
14. 各科の麻酔
脳神経外科、胸部外科、腹部外科、産婦人科、泌尿器科、整形外科、眼科、耳鼻科、
口腔外科、皮膚科
15. 集中治療
16. 周術期急性痛
17. 慢性痛

18. 手術室における安全性と環境整備

19. 麻酔における研究計画と統計学

<基本手技項目>

1. 血管確保

末梢静脈路、中心静脈路、動脈カテーテル挿入

2. 気道管理

気道確保、気管挿管、ラリンジアルマスク、片肺換気

3. モニタリング

心電図、血圧測定、パルスオキシメーター、カプノメーター、体温モニター、筋弛緩モニター、

4. 血液採血

静脈血採血、動脈血採血

5. 治療手技

導尿、胃管挿入、気管内吸引、輸液、輸血、心肺蘇生

6. 区域麻酔

脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、腕神経叢ブロック、閉鎖神経ブロック、大腿神経ブロック

7. 鎮痛法

鎮痛法の選択、硬膜外鎮痛法、非経口的鎮痛法、経口的鎮痛法

8. 感染予防

スタンダードプリコーション

VI 週間行事予定

	8:30~9:00	9:00~10:00	10:00~17:00
月	カンファレンス		手術・救急・ICU
火	カンファレンス	勉強会	手術・救急・ICU
水	カンファレンス		手術・救急・ICU
木	カンファレンス	抄読会	手術・救急・ICU
金	カンファレンス	症例検討会	手術・救急・ICU